



2024年12月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は11月に最高気温が35度になる日もあり、今年の夏も昨年同様に猛暑が予想されます。既に森林火災を心配する声も出始めており、今年の夏も警戒が必要です。銅価格は4月から世界的に銅の需要が増えて5月に5.0ドルを超えて過去最高値になり、6月以降は4.3-4.5ドル台で高値推移をしていました。

トランプ次期大統領就任で、今後は中国の買い意欲が低下する推測があり、銅価格は3.9-4.1ドル台に下落しています。為替はドルに対して900ペソ前半から950-970ペソ台へドル高ペソ安が進行しています。

2026年のFIFAワールドカップ南米予選は11月現在、チリは10チーム中9位と低迷しており次回も出場が危なくなってきました。

2. 世界市況

中近東市場は欧州、ブラジルからの製材輸入が大幅に減少しており、引き続きチリへの購買意欲は継続しています。今年は2ヶ月に1回の間隔でバルク船スケジュールを満船で運行しています。今後も欧州の丸太不足が懸念されており、しばらくは中近東の市況は堅調に続きそうです。

トランプ次期大統領就任で来年以降は中国から米国への関税が大幅に上昇することが予想されています。アラウコが販売をしている中国の木材業者は4年前の前トランプ政権で工場を中国からベトナムへ移転する企業が多数ありました。

来年以降は中国からインドネシア、カンボジアへ工場を移転する企業が増えそうです。韓国市場は引き続き、欧州材、NZ製材の輸入数量減をチリ製材でカバーしており、チリからの販売数量は堅調です。NZ丸太輸入も毎年減少をしており、韓国国内のNZ丸太離れの市況は続いております。来年以降は中国企業の動向によっては韓国の輸出先が中国から東南アジア諸国へ変わる可能性が出てきました。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2024年9月配船（4番船）は予定通り日本へ11月に入港をしました。

12月配船（5番船）は12月中旬以降に現地を出港する予定で、日本入港は来年1月後半からの予定に変更はありません。販売数量は3万m³の満船にはならず、約90%の積載になります。来年の配船スケジュールは当初バルク船を年間6配船（60日間隔）で計画をしていましたが、過去2年間でバルク配船は毎年5船の運航で、今年はバルク船を満船に出来る船が減っております。来年は5バルク配船（70日間隔）で運航をする計画に変更しました。またアラウコはバルク配船の遅れや、在庫サイズの不足に対応する為、来年はバルク配船がメインですがグリーン製材を毎月コンテナで配船をする販売も始めます。各社の在庫管理をサポートしていきたい意向です。

2025年2月バルク配船（1番船）は年間5バルク配船になりましたので、日本入港は当初より遅れて4月に入港してゴールデンウィーク前に終わらせる予定です。

b) 梱包市況

梱包需要は10月後半から11月にかけて、木箱、矢板、パレット需要が弱いながらも継続して動いています。8-9月の最悪期からは梱包市場の需要は回復基調にあります。但し木箱の製材使用率は減少傾向で、半導体装置メーカーを中心に合板、LVL使用が増えています。またラジアータ材は国産材と競合しており、円安ドル高傾向、中国向け輸出の低迷等、チリ材を扱う問屋は厳しい市況にあります。

7月に入荷した2番船以降は各地で2000-3000円の値上げを浸透中ですが、西日本はまだ値上げが浸透していません。為替も再び円安傾向なので、年末にかけて値上げの浸透をしていきたい市況ですが、杉製材との競合も激しく苦戦しています。

各社の在庫水準は多くなく、今後はバルク配船の間隔が開くので、サイズによっては、来年3月以降に在庫が不足する可能性が出てきました。

来年前半は欧州材の入荷が大幅に減る見込みで、今後の建築材の市況によっては、国産杉製材のラミナ生産が増えて、梱包材向け製材の納期延長、製材価格が強まる可能性もあります。

c) アラウコ乾燥材(KD)

アラウコはKD設備を来年1月にコンセプションからバルデヴィア工場へ移設しますが、残念ながら日本向け薄物製材機械の移設は断念しました。

日本向け販売数量は約1000m³（月間）で世界市場では12-15mmの薄物需要が無いからです。21mm以上の厚物は引き続き生産を継続していきます。

アルゼンチンのタエダパイン工場ですべての予定をしていますクロスカット設備は来年1月に設備される予定に変更はありません。

以上